



令和5年7月6日
国土交通省関東地方整備局
京浜河川事務所

水マス推進サポーター認定式を行いました

～ 6団体を新たに水マス推進サポーターとして登録 ～

鶴見川流域では、平成16年8月に鶴見川流域水協議会（国土交通省、東京都、神奈川県、横浜市、川崎市、町田市、稲城市）により策定された「鶴見川流域水マスタープラン（通称：水マス）」の普及啓発を図るため、関係する流域の市民団体、企業及び行政により「ふれあって流域鶴見川実行委員会」を設置し、水マス啓発の活動を進めています。

取り組みの一つとして、水マスのビジョンに該当する「流域貢献活動」をすでに行っている団体、企業を鶴見川の応援団「水マス推進サポーター」として認定し、それぞれの主体による「流域貢献活動」を通じて水マス推進のための情報交換や貢献活動の連携の輪に加わって頂くための仕組みが「水マス推進サポーター」制度です。

令和5年6月29日、鶴見川流域センターにおいて水マス推進サポーター認定式を執り行い、新たに6団体を登録しました。当日は新規の水マス推進サポーター、ふれあって流域鶴見川実行委員会の委員等が出席しました。

「水マス推進サポーター」制度は平成22年度からスタートし、令和5年度新規認定サポーターを含めて168の団体、企業となります。

<発表記者クラブ>

竹芝記者クラブ 神奈川建設記者会 神奈川県政記者クラブ 東京都庁記者クラブ

<問い合わせ先>

関東地方整備局 京浜河川事務所

電話：045-503-4000（代表） FAX：045-503-4010

副所長 藤枝 達也（内線：205）

流域調整課長 佐藤 克巳（内線：361）

■令和5年度「水マス推進サポーター」認定団体一覧

| 団体・企業名 | 活動内容 | 活動場所 |
|--|--|------------------|
| 源流休耕田調整池人会 (げんりゅうきゅうこうでんちょうせいいけんどかい) | 鶴見川源流保水の森の休耕田調整池の整備、維持管理の支援 | 鶴見川源流保水の森 |
| 町田市立南成瀬小学校 (まちだしりつみなみなるせしょうがっこう) | 総合的な学習 恩田川フィールドワーク | 恩田川高瀬橋下流左岸 |
| 東邦レオ株式会社・きちじつWONDER BASE (とうほうれおかぶしきがいしゃ・きちじつWONDER BASE) | 矢上川野鳥観察会、宮前美しの森公園レインガーデン看板設置協力、箕輪小学校環境学習への協力など | きちじつWONDER BASE等 |
| 綱島地区家庭防災員連絡協議会 (つなしまちくかていぼうさいいんれんらくきょうぎかい) | 家庭防災員活動として減災行動を連合自治会や地域と連携して活動している | 横浜市港北区綱島 |
| 芹沢銈介緞帳プロジェクト (せりざわけいすけどんちょうぷろじえくと) | 故・芹沢銈介氏が描いた絵をもとに作られた横浜市港北区公会堂にある緞帳の芸術的な意味合いと歴史や文化などを伝承する活動 | 横浜市港北区綱島 |
| 災害防止対策連絡協議会 鶴見川水系 (さいがいはうしたいさくれんらくきょうぎかい つるみがわすいけい) | 行政と連携した河川施設の維持やパトロール、また災害復旧、緊急出動など | 鶴見川流域神奈川県管理地域の水辺 |



令和5年6月29日 水マス推進サポーター認定式

※水マス推進サポーター規約及び認定団体一覧につきましては、以下の京浜河川事務所HPをご覧ください。

https://www.ktr.mlit.go.jp/keihin/keihin_index052.html

水マス推進サポーターの活動状況（1）

源流休耕田調整池人会

（げんりゅうきゅうこうでんちょうせいけんどかい）

【団体概要】

令和2年12月13日(日)に、町田市とNPO法人鶴見川源流ネットワークは、野中谷戸雨水調整地創出プロジェクト・キックオフとして休耕田調整池約70㎡を整備した。その際、整備の支援をした関係者を中心に、今後も休耕田調整池の整備、維持管理を支援する「源流休耕田調整池人会」を設立した。

【水マス支援活動】

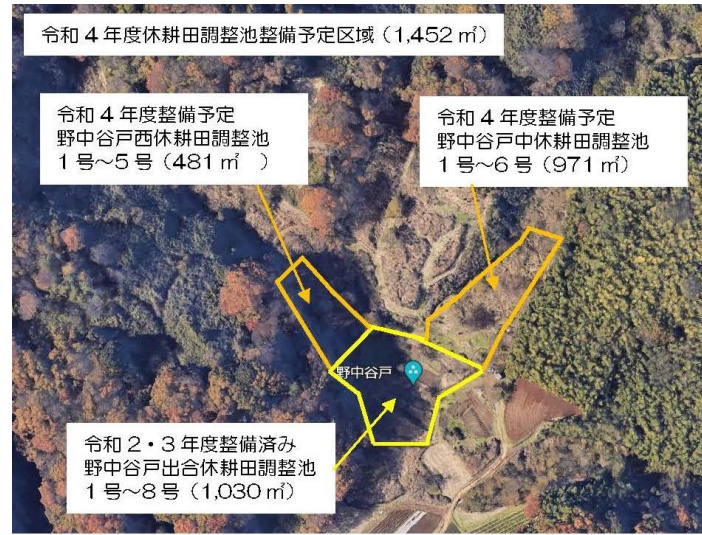
鶴見川流域治水プロジェクト（町田市）の『休耕田による調整池機能の整備』を支援するとともにグリーンインフラである鶴見川源流等の雑木林・緑地等の保全・管理の支援もしている。

（休耕田調整池整備支援の実績）

- 令和2年度 出合1号休耕田調整池 約70㎡
- 令和3年度 出合2号～8号休耕田調整池 約960㎡
- 令和4年度 西1号～5号休耕田調整池 約481㎡、中1号～6号休耕田調整池 約971㎡



野中谷戸雨水調整地創出プロジェクト・キックオフ



水マス推進サポーターの活動状況（2）

町田市立南成瀬小学校 （まちだしりつみなみなるせしょうがっこう）

【団体概要】

町田市立南成瀬小学校の5年生の授業では、恩田川フィールドワークで恩田川での総合学習を実施している。

【水マス支援活動】

恩田川高瀬橋下流左岸親水護岸で水辺の生きものについての学習を行っている。また、学校から恩田川までのアクセスでも、恩田川の学習をしている。



恩田川フィールドワークの様子

水マス推進サポーターの活動状況（3）

東邦レオ株式会社・きちじつWONDER BASE

（とうほうれおかぶしきがいしゃ・きちじつWONDER BASE）

【団体概要】

都市緑化と緑を通じたコミュニティづくり、省エネ対策の外断熱、屋上リビングなどを通じて新たなライフスタイルを提案し、技術、デザイン、開発・運営を包含したグリーンインフラを通じて街づくりに取り組んでいます。

2021年4月に、横浜市港北区にグリーンとDIY工房の店舗「きちじつWONDER BASE」をオープンし、nature & craft & dialogue をテーマに自然に触れたり、ものづくりを楽しんだり地域・流域のみなさんの居場所にしていくことを目的に、地域や流域の方や団体と一緒にイベントやワークショップの企画・開催などにも取り組んでいます。

【水マス支援活動】

○2021年4月25日（日） 慶應日吉キャンパスの出張水族館

慶應義塾大学・日吉丸の会の協力の下、きちじつWONDER BASE内で日吉キャンパスの生きものを水族館形式で展示した。

○2022年2月19日（土） 宮前美しの森公園・レインガーデン看板製作および設置

宮前美しの森公園愛護会からの依頼により、矢上川源流にある宮前美しの森公園のレインガーデンの看板を製作、設置作業を支援した。

○2022年2月26日（土） 矢上川バードウォッチング

NPO法人鶴見川流域ネットワーク、矢上川で遊ぶ会、慶應義塾大学・日吉丸の会の協力の下、矢上川の野鳥観察会を実施した。

※2023年度、矢上川流域で自然観察会企画を検討中。



慶應日吉キャンパスの出張水族館



宮前美しの森公園・レインガーデン
看板製作および設置



矢上川バードウォッチング

水マス推進サポーターの活動状況（４）

横浜市港北区綱島地区社会家庭防災員連絡協議会

（よこはましこうほくくつなしまちくしゃかいかていぼうさいいんれんらくきょうぎかい）

【団体概要】

横浜市消防局は家庭防災員制度を設けている。家庭防災員制度の目的は、自助から始まり地域防災の担い手にもつなげる研修制度として、一人でも多くの市民が研修を受講し、防火・防災に関して必要な知識及び技術を身に付けることを目的としている。

港北区綱島地区社会家庭防災員連絡協議会（以後、綱島家庭防災員連絡協議会）では、減災行動展を実践するなど、特に活発な活動が展開されている。

【水マス支援活動】

綱島家庭防災員連絡協議会が主催する「減災行動展」は、水マス推進サポーターでもある地元連合自治会や商店街のサポートで継続されてきた。地元自治会や商店街と連携した綱島家庭防災員協議会主催による自助共助を推奨する防災イベントである。すでに10年以上継続実施している。

また、地域防災施設鶴見川流域センターなどを訪問し防火・防災に関する研修を深める活動も実践している。（協賛連携する綱島地区連合自治会、綱島連合協同組合綱島連合会はいずれも水マス推進サポーター）



減災行動展洪水ハザードマップの配布



減災行動展 地震対策用品の展示



減災行動展 ローリングストックの紹介

水マス推進サポーターの活動状況（5）

芹沢銈介緞帳プロジェクト (せりざわけいすけどんちょうぷろじえくと)

【団体概要】

横浜市港北公会堂の緞帳は、かつて南綱島村の名主、池谷家に残る鶴見川流域絵地図をモチーフに人間国宝だった故・芹沢銈介氏が描いた絵をもとに作られた。これらに着目した市民たちが、芸術的な意味合いと歴史や文化などを人々に伝えていこうと、2021年4月、芹沢銈介緞帳プロジェクトを発足させ、活動してきた。

【水マス支援活動】

芹沢銈介緞帳プロジェクトは、これまで講演会や展示会、港北ふるさとテレビ局（水マス推進サポーター）と連携し動画を作成するなどの活動を継続し、現在は小冊子（頒布予定）の作成中である。これらの活動の紹介を通して、鶴見川下流域の水害の歴史や文化を発信している。地域情報誌などにも紹介され、活動情報が発信されている。

2023年3月4日(土)には、地域防災施設鶴見川流域センターの学習会「芹沢銈介緞帳プロジェクト」を実施し、プロジェクトメンバーが登壇し、わかりやすい興味のもてる解説で、鶴見川の歴史と深くかかわりがあることを参加者は学ぶことができた。



港北ふるさとテレビ局制作動画



港北区の作成した地域情報誌に掲載



鶴見川流域センターの学習会のチラシ

水マス推進サポーターの活動状況（6）

災害防止対策連絡協議会・鶴見川水系

（さいがいぼうしたいさくれんらくきょうぎかい・つるみがわすいけい）

【団体概要】

神奈川県横浜川崎河川事務所に関連した民間外郭団体。主に鶴見川水系中流域の治水工事を担う建設業者 31 社（青葉区・都筑区・緑区・港北区・鶴見区）で構成される。

【水マス支援活動】

日頃より、河川管理者など関係各団体と連携して、水防訓練や救命救急講習や広報活動を実践し、鶴見川の安心安全のために活動している。

また、当団体の創立40周年事業の一環として、2022年10月28日、慶應義塾大学の岸 由二名誉教授の「鶴見川流域治水の歴史と成果」の講演会を実施し、一般市民にも公開した。

なお、鶴見川流域での防災啓発活動を目的とした、記念映像「流域治水のさきがけ鶴見川水害ゼロへの挑戦」を作成した。現在、学習資料として一般で活用できるように準備中である。



慶應義塾大学の岸由二名誉教授の講演会の様子

鶴見川流域水マスタープランの概要

鶴見川では洪水、水環境、自然環境、震災・火災、親水に対して、総合的に取り組むことによる「健全な水循環系の構築」を目指し、流域の市民、市民団体、企業、行政が協力して平成16年8月に鶴見川流域水マスタープランを策定しました。策定から10年以上が経過し、これまでの取り組みを見直し、地球温暖化など近年の状況を踏まえ、平成27年12月に鶴見川流域水マスタープランを改定しました。

(鶴見川流域水マスタープランホームページ http://www.ktr.mlit.go.jp/keihin/keihin_index049.html)



■計画の内容

河川及び流域における水害の発生、河川流量の減少と水質汚濁、自然環境の悪化、震災・火災時の防災、減災、水辺とのふれあいの不足の問題・課題に対し、流域の社会動向を踏まえ、水循環系の視点から流域的視野で取り組むべき対応策を以下の5つの流域水マネジメントにまとめています。

＜基本方針＞

＜水マス5施策＞

洪水時水マネジメント



☆洪水の危険から鶴見川流域を守ります

- ・流域が一体となった治水安全度の向上
- ・水害に強いまちづくり
- ・地球温暖化に伴う降雨量及び降雨強度の増大、海面上昇等の変化への適応
- ・小流域への豪雨による土砂災害への適応
- ・大規模震災に備えた津波に強い河川施設等の整備

平常時水マネジメント



☆豊かで清らかな水環境を創出します

- ・支川の自然の流量を確保
- ・地下水の保全・涵養と湧水の復活
- ・子供たちが水遊びでき、多様な水生生物が生息・生育・繁殖できる水質に改善
- ・東京湾への汚濁負荷の削減
- ・水を再利用する社会の実現

自然環境マネジメント



☆流域のランドスケープ、生物多様性を保全・創出・活用し
自然とふれあえる都市を再生します

- ・流域に残された自然環境の保全
- ・水と緑のネットワークの保全・回復
- ・身近な自然と共生する都市の再生

震災・火災時マネジメント



☆震災・火災時の危険から鶴見川流域を守ります

- ・河川を生かした災害に強いまちづくり
- ・河川とまちの連携による防災ネットワーク化

水辺ふれあいマネジメント



☆河川とのふれあいを通じて、流域意識を育むうらおいのある暮らしを実現します

- ・流域学習の促進
- ・多様な資源を活用した流域ツーリズムの推進
- ・流域の環境に負荷をかけない暮らしの実践